



印刷会社の匿名係 ~デザイナーのできることって案外あるようだ~

36 紙芝居の魅力 「日本の文化で世界をつなぐ」

田淵 健一*

絵本の魅力

昔々あるところに、おじいさんとおばあさんが…

このフレーズ、日本人なら知らない人はいないだろう。きつと誰かが絵本を片手に読み聞かせてくれたのではないだろうか。

絵本にはとんでもない魅力が詰まっている。ただ、大人になるとその大切なものが見えなくなってしまう。

私は単純に絵本が好きだった。

しかし、社会人になり、仕事を通じて絵本と関わるようになると見方が少しずつ変化していった。いい本なんだという解説に始まり、キャラがたっているとか、絵

に対する評論なんかを口にするようになっていた。そんな私を原点に戻らせてくれたのは、ある図書館での紙芝居のイベントだった。

なぜなら、絵本と紙芝居は、絵を見せ、文章を読み聞かせるという点で共通しているからだ。

紙芝居は世界へ広がる

「紙芝居」は日本独自のものだというところをご存知だろうか。

紙芝居は1930年頃、街頭紙芝居として日本で生まれた。当時は駄菓子を売るための人集めの道具として利用されたという。戦後は作家による出版作品として発展していき、児童文化として確立される。そして今では「KAMISHIBAI」と表されるようになり、海外でもその評価は高い。例えば、アメリカの「21st Century Skills」という子どもたちへの教育プログラムには、「コミュニケーション力」(他人と意思疎通できる)「コラボレーション力」(他人と協力できる)「クリティ

カルシンキング」(与えられた答えを鵜呑みにするのではなく、自分の頭で考えることができる)「クリエイティビティ」(創造力を発揮することができる)という4Cが定義されており、KAMISHIBAIは子どもたちが学ぶべきスキルを網羅しているという。

また、欧米諸国を中心に学校教育として導入されている「シティズンシップ教育」(責任と良識のある市民を育てるための教育)でもKAMISHIBAIが役立つのではないかと考えられているようだ。

共感を生み出す文化

ここで絵本と紙芝居の違いについて、「紙芝居文化の会」の理論をお伝えしたい。絵本は本の中に読者が入っていくようなもので、その中で自分自身(個)の感性が生まれていく。それとは対照的に紙芝居は演者(演じ手)が存在し、観客として共感しながら感性が生まれていくものだという。

個と共感という2つの感性はまさに車の両輪のようなもので、この2つの感性があつてこそ、生きることの素晴らしさが、磨かれ、深められていく。

紙芝居の歴史は絵本に比べると短いものだが、日本で生まれた紙

左上:『しあわせいろのカメレオン』
脚本・絵 ベッポ・ピアンケッシ 訳 野坂悦子
左下:『かしこいカンフ』
再話 ラメンドラ・クマール
訳・脚色 野坂悦子 絵 田島征三
いずれも版元は童心社



芝居は「共感」を生み出す文化として、世界中から求められているのだ。

子どもたちの姿に学ぶ

さて、私が見た紙芝居のイベントは図書館の一部屋を使って行われたものだったが、そこには特別な空間が存在していた。

子どもたちは紙芝居に釘付けだ。画面が一枚引き抜かれようとする集中度が高くなるのだろうか、立ち上がったまま微動だにしない子どもがいた。しばらくすると、演じ手が子どもたちに向き合い語りかける。その場は一気に華やぎ笑顔に包まれていた。ここはイタリアのボローニャ市立図書館、この地域に住む子どもたちは紙芝居に夢中だ。言語はイタリア語だろう。内容はわからなかったがその何とも楽しい雰囲気は肌身

『やさしいまものバッパー』
脚本 野坂悦子 絵 降矢なな
版元 童心社
上は迫力満載のバッパーの登場シーン



で伝わってくるものだった。

このイベントを紹介いただいたのは、翻訳家で作家でもある野坂悦子氏だ。現在、「紙芝居文化の会」の海外統括委員、JBBY(日本国際児童図書評議会)の理事もつとめられ、日本ペンクラブの会員でもある。

やさしいまものバッパー

野坂氏は魅力的な方だ。話をしていると時間を忘れて聞き入ってしまう。先日、お会いしたのは喫茶店だったが、私のためだけに紙芝居を演じていただいたりした。脚本を担当された『やさしいまものバッパー』は、紙芝居の場面を抜く方向を考えながら、何度か手

直しを行ったと聞いた。画面一枚一枚の構図も大胆で、さらに野坂さんの実演もあり、私はその世界に引き込まれていた。紙芝居は演じ手と観客が向き合い、語るセリフが臨場感を生み出し、コミュニケーションをひきおこす。

野坂氏が委員をつとめる紙芝居文化の会では「日本独自の文化財、紙芝居を世界に！」とよびかけられている。今後の取組みに注目していきたい。(つづく)

* TABUCHI, Kenichi
昌栄印刷株式会社 営業企画部長 兼
クリエイティブセンター長
tabuchi@shoei-printing.com

